



図書館だより 第60号

2025年(令和7年)2月5日
独立行政法人国立高等専門学校機構
広島商船高等専門学校

◆◆◆巻頭言◆◆◆ 図書館長 澤田 大吾

最近、本屋に行くと「自己啓発に関する本」や「NISA や iDeCo などの投資を促す本」そして「地政学に関する本」の3種類の本がやたら目立ちます。

10年くらい前までは、「地政学」などという学問が表面化することなどほとんどありませんでした。

しかし、最近のウクライナ情勢や中東情勢さらに台湾有事や米中対立などの国際情勢が不安定になると、「地政学」という学問が一気に表舞台に登場しました。

地政学は19世紀から20世紀にかけて、さまざまな学者によって研究されてきました。特に植民地政策において領土を拡大しようとし

ていた当時のヨーロッパ列強国の考え方に合致したものであったので、第二次世界大戦までは列強各国で盛んに研究されていました。

日本もまた「地政学」の研究が盛んにされてきましたが、第二次世界大戦後は侵略戦争を肯定する概念として、研究を禁止するような考えもありました。平和憲法を持つ日本において、侵略を肯定する概念など研究する必要はないというものです。

しかし、ここ数年、日本の本屋に「地政学」と名のついた題名の本がたくさん並ぶようになりました。

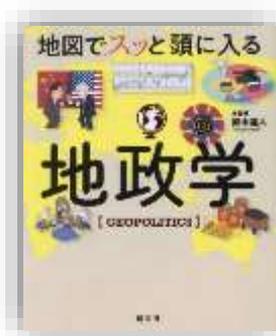
地政学とは、地理的な条件に注目して、軍事や外交といった国家戦略、または国同士の関係などを分析、考察するものです。

地理的条件とは、世界各国がおかれている地理的状況はまず変化することはありません。その地理的な条件を考察して、各国の政治(外交・軍事)を分析するというものです。

例えば、日本は四方を海で囲まれた国です。政治のトップが代わったりしますが、国の地理的状況は変わることはありません。そのため、日

本は「シーパワー」を持つ国と規定され、「シーレーン」(海上交通路)を活用することで海洋国家となりました。

一方で、中国やロシアなどは「ランドパワー」を持つ国で、海を欲して領土拡大を始めます。「ランドパワー」と「シーパワー」がぶつかる場所を「リムランド」と呼びます。歴史的に大きな戦争が起こるのは、ほとんどが「リムランド」と言われるのです。



「リムランド」の戦いに勝利するためには、「チョークポイント」を抑えておけば戦いを有利に展開できると言われます。「チョーク」とは「弱点をつく」とか「おせる」という意味があります。ここから「地政学」上で、「チョークポイント」とは「狭くて通行が困難な地点」という意味になります。学者によって違いますが、10～20の「チョークポイント」があると言われます。

かつてイギリスは「大英帝国」を築く上でチョークポイントを確実に抑えていました。スエズ運河・ボスポラル海峡・マゼラン海峡・マラッカ海峡に喜望峰などです。

「地政学」の概念を理解すれば、現在起きている世界中の紛争の理由や根拠が理解

できるのです。そして「地政学」を理解した上で、世界の動きやその背景を知ること、我々の生活に影響してくることを予測することができるようにならないといけません。

現在、「地政学」を教えている大学はありません。（防衛大学では近いことをしています）学術論文を探しても、「地政学」を名乗る論文はそんなに多くはありませんが、今後はわかりません。もちろん、国際関係学部や戦争の多い地域の研究者などは「地政学」に近い研究はされていると思いますが、今後は増えていくと思われます。みなさんも一般教養として一度「地政学」なるものを読んでみてはどうですか？

学科推薦図書を紹介



商船学科 推薦 清田 耕司 先生

商船学科の推薦図書を紹介します。

商船学科の推薦図書として先生方からの推薦、最近出版・改版された図書が購入されました。学科に関わらず、ぜひ、図書館で手に取って眺めるところから始めてみてください。

購入図書の一部を簡単に紹介します。

- 『船の基本』“気づいたらパラッと読んでみてください。きっと続けて読むことになります”
- 『現場で役立つ図面の読み方・描き方』“就職したら直ぐに図面を渡されます。慌てないように準備しておきましょう”
- 『新・雲のカタログ』“通学の途中で見上げる空の雲をちょっと知ることが出来るかも”
- 『コンテナから世界経済を読む』“世界中で同じ規格の“箱”が動いてモノ運びをしています”
- 『新国際物流論基礎からDXまで』“海運・物流管理論などで深掘りしてみましょう”
- 『決して止まらない船』“船舶DX化の現在の様子を知ってみませんか。想像以上に船舶の自動化への動きは進んでいます”
- 『みなとのいちにち』“港の船や荷役の様子が判ります。イラストの青山さんは広島丸のイラストを描いてもらっています”
- 『港で働く』“海運は船だけではなく。港での仕事を知ってみましょう”
- 『移民船から世界をみる』“貨客船で多くの方が新天地を夢見て太平洋を渡られました”
- 『にっぽん全国楽しい船旅』“新しいバイト先と船を知るチャンスかも”
- 『司馬遼太郎“菜の花の沖”と北前船』“江戸時代の海運を覗いてみませんか”

電子制御工学科 推薦 山下 泰史 先生

『データ構造とアルゴリズム』/Jay Wengrow 著/ 朝倉書店

本教科書の内容

『データ構造とアルゴリズム』は、コンピュータを使って効率よく情報を管理するための方法を学ぶ本です。コンピュータは、たくさんのデータ（例えば、名前や数字など）を扱う必要がありますが、そのデータをどう整理するかが重要です。この本では、データを整理するための「データ構造」と、それを使って問題を解くための「アルゴリズム」を学びます。

まず「データ構造」について説明しています。データ構造とは、データをどのように並べて保存するかという方法です。例えば、リストや箱を使って順番に並べる方法がいくつかあります。それぞれの方法は、データをどう扱うかに影響を与えます。

次に「アルゴリズム」は、問題を解決するための手順や計算方法のことです。例えば、リストから特定の情報を探す方法や、データを並べ替える方法などがあります。この本では、効率よく問題を解決するためのアルゴリズムについても学びます。

この本を読むことで、コンピュータを使った仕事やプログラミングをより賢く効率的に行う方法がわかります。



一般教科 推薦 後藤田 和 先生

『サンショウウオの四十九日』/朝比奈秋 著 / 新潮社

陰陽図をご存じでしょうか？「☯」これです。別名陰陽魚と呼ばれ、二対の魚が追いかけている様子を指しますが、これを見た本作の主人公の濱岸杏と濱岸瞬は「サンショウウオ」に見立て、自分たちの境遇と重ね合わせます。「自分の気持ちが一番大切、なんていう言葉を聞いたときにニヤニヤと含み笑いをしてしまう。」と思考する彼女たちは結合双生児として生まれたことにより、さまざまな困難や出来事に苛まれながら、乗り越えていくことになります。

昨年の芥川賞を受賞した作品ですが、「芥川賞なんて読みにくくて高尚なものなんでしょ？」と思われる方もいるかもしれません。確かに「読みにくい」です。が、この作品が読みにくいのは単に「純文学で、高尚なものだから」としてではありません。一つの体を二人で共有している語り手が別々の視点で、あるいは混ざり合う思考で語るからです。読み手である私たちはある場面では「これは杏の思考なのか、瞬の思考なのか」と何度も辿り直すでしょう。しかしそれは読み手である私たち自身が「自分とは何者か」を辿り直す旅でもあります。私もまだその答えは見出せませんが、みなさんも一緒に自分探しの旅に出発してみませんか？





流通情報工学科 推薦 風呂本 武典 先生

『ザイム真理教—それは信者 8000 万人の巨大カルト』/森永卓郎 著 /フォレスト出版
財務省いわく日本は借金大国、国債残高世界一、国民一人当たりの借金は 1000 万円だから増税は仕方ない。しなければ日本はギリシャやアルゼンチンの様に破綻する。こんな調子で財政危機と増税の宣伝がエライ人たちによってあらゆるメディアで日々行われているからそれを信じている国民も多い。しかし 30 年の日本の経済低迷、過去最高税率なのに未だ増税、益々冷え込む景気、等々どうも財務省の宣伝はおかしいのではないかと気付く人も増えている。この本はそんな疑問に一石を投じる本である。財務省の宣伝は一面では本当であるが一面では違う。主語の日本、というのは誰を指すのか、家計、企業、財政という経済主体を分けて考える事、複式簿記の考え方で数字を見る事、それだけでも見えてくる実態は違う。財政は確かに赤字であるが日本全体で見れば総資産と総負債の差額の純資産は黒字である。そして我々国民は国にカネを貸している立場なのである。国債の処理のされ方、歳入と歳出の中身など細かく見ていけば、カネの取り方使い方にも勿論問題が山積しているが、まずは今の財政均衡論なるものの枷を外して考えてみよう。この本の著者の森永卓郎さんは、財務省、政治家、資本家、御用学者といったザイム真理教と戦い続ける中、先日お亡くなりになった。改めてご冥福をお祈りします。

こんな本もあります!!



その他にも紹介しきれませんが、
新刊が約 200 冊入っています。
春休み中は1人10冊まで借りられます。

「好き」を言語化する技術 /三宅香帆 著
いざ！ 語ろうとすると「やばい」しか出てこない
経験がある人は多いはず。そんな感動を
言語化できたらいいなを叶えてくれる1冊です。

街角ファンタジア/村山早紀 著
誰かのための真摯な祈りが“優しい奇跡”を
連れてくる。愛に包まれた全5話。
本屋大賞ノミネート作家の最高傑作短編集!!

編 集

後 記

※今回は主に図書委員会の先生方や図書館職員のおすすめ本をご紹介いたしました。ご協力いただいた先生方ありがとうございました。
※今後も、読書や図書館利用の促進を目的として「図書館だより」を発行してまいります。
これを機にたくさんの方にご来館いただけると幸いです。
こんな本が読みたい、気になる本があるなどのご要望があれば随時受け付けていますので、図書館職員にご相談ください。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



◇編集発行：図書委員会（令和 6 年度）：澤田大吾（図書館長・一般教科）・清田耕司（商船学科）・風呂本武典（流通情報工学科）・山下泰史（電子制御工学科）・後藤田和（一般教科）
◇〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野 4272-1
<https://www.hiroshima-cmt.ac.jp/facility/lib.html>